

東京大学大学院人文社会研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣

帰国報告

新田昌英（東京大学 人文社会系研究科 助教）

最終報告提出日 2011 年 10 月 15 日

研究課題名：マネジメント教育における人文学の役割に関する調査

派遣先：イエール大学、ブラウン大学、ジョージタウン大学

派遣期間 出発日：2012 年 8 月 28 日

帰国日：9 月 19 日

総日数：22 日

主な研究成果

今日、人文学の関連分野をカリキュラムに取り入れようとする MBA プログラムが増える傾向にある。マネージャーに要求される価値が変わりゆくにつれて、一部の人文学関連分野は伝統的な MBA のカリキュラムを補完しうるものとみなされるようになってきた。本研究の目的は、アメリカの大学で行うケーススタディを元に、マネジメント教育の現場で実際にどのような教育が行われているかについて、俯瞰的な視野を得ようとすることにあった。

イエール大学訪問時には、「マネジメントリーダーシップと文学」という講義を担当する Shyam Sunder 教授に、講義の内容についてインタビューを行った。伝統的な社会科学ベースのリーダーシップ教育では、過去の著名なリーダーの生き方から「リーダーシップの法則」を同定して学生に示そうとする。一方、文学作品を読むことにより、学生は将来のリーダーとして求められる反省と自己検分の習慣を育てることが期待される。Sunder 教授の協力により、イエール大学の他のスタッフや教授陣に面会し、話を聞くことができた。Yale School of Management では、他のビジネススクールと異なり、2 年次の後半は選択科目を履修する期間となっている。履修内容の選択について、大学は学生の自主的な判断を信頼しているためである。学生は人文系の講義を含むイエール大学の様々な授業を選択することができるようになっている。一部の生徒は課外活動でリベラルアーツに関するクラブにも入っている。Sunder 教授は、Convening Yale という連続講義の統括責任者でもある。この講義では、イエール大学全体から人文系の様々な研究者が集まり、経営学専攻の学生に授業を行う。Yale School of Management は所属大学であるイエール大学との結びつきが強く、同大学のリベラルアーツの伝統がマネジメント教育に浸透するようなカリキュラム設計がなされているといえよう。

IE Brown Executive MBA は、IE ビジネススクールとブラウン大学が共同で運営するミドル・シニアエグゼクティブ向けの学位取得型プログラムである。同プログラムでは、カ

リキュラムの約 3 分の 1 が社会科学と人文学に関連する講義となっている。ブラウン大学訪問時には、実際に授業を行なっている教授とプログラム運営スタッフに話を聞くことができた。Michael Steinberg 教授は、Beyond Business Curriculum とよばれるカリキュラムにおいて、文化と政治に関する講義を担当している。同教授によれば、IE Brown Executive MBA における人文学の役割は、文化、歴史、政治の深層部分における分析としてとらえられている。

ブラウン大学生涯教育部長の Karen Sibley によれば、同プログラムの参加者によるプログラムの事後評価が概して高い理由は、彼らが伝統的なビジネススクールにずっと真剣に求めていながらも見つけられなかったものが、ようやく見つかったという感覚によるのではないかと、ということであった。「リベラルアーツとマネジメントのモザイク」を標榜する同プログラムの成果の一部は、学生が卒業課題として提出する最終プロジェクトに見られる。1 期生が提出したプロジェクト全体の約半数は、非営利のプロジェクトであった。非営利事業のこの比率の高さは、ビジネススクールの課題にしては稀なことである。同プログラムのディレクターを務める Patrick McHugh によれば、同プログラムにおける経験の性質を言い表すならば、思考の地平と視野を広げることにより、予期せぬビジネスチャンスの発見につながりうるということであった。

ジョージタウン大学の McDonough School of Business では、学部段階での経営教育において「経営とリベラルアーツの講義を〔組み合わせ、〕学生に批判的思考と推論の強固な基盤を与える」ことを標榜しているが、人文学関連の具体的な取り組みは見られなかった。しかし同校では外国語の各学科に Business Coursework とよばれる一連の授業を提供しており、外国語専攻の学生が経営学を実質的な第二専攻として履修できるようにするユニークな取り組みを行なっている。ジョージタウン大学のフランス語学科訪問時には、この取り組みに関する情報を含む履修科目の情報を受け取った。

考察

マネジメント教育における人文学関連授業に関する調査がまず示していることは、授業のデザインは、教員のそれぞれが人文学関連分野に見出している中心的な価値を反映しているということであり、またそうした価値は、ビジネススクールで教えられている授業のすべてで必ずしも同じではないということである。

マネジメント教育のカリキュラム編成に携わる人々も、授業に実際に携わる教員も、ビジネススクールの授業と人文学の専門的な授業で期待されていることの間にはギャップがあることに気づいていた。このギャップの性質は、イデオロギー上のもというよりは技術的なものであるように見える。アメリカの大学では、人文学の教員が、次回の授業までに本を 3 冊読んでくるように課題を指示することがあるが、時間がないビジネススクールの学生にそのような要求を課すことはできない。ビジネススクールで人文学を教える場合、教員は教えるべきことの本質的な部分をすぐに言わなくてはならない。結果的に、ビジネ

スクールと人文学の専門的な大学院では、課題の出し方も変えなくてはならない。